

## 教員のICT活用推進に向けた研究

～グループウェアの活用による情報の共有化を通して～

福島県教育センター 長期研究員 伊藤 寛

### 1 研究の趣旨

情報教育及びICT活用の推進については、中学校学習指導要領総則において、ICTを活用した効果的・効率的な教育により、確かな学力を確立するとともに、社会の変化に対応する情報活用能力をはぐくむことが重要であるとされている。

更に、「教育の情報化に関する手引」（文部科学省）では、教育の情報化の要素を「情報教育」「教科指導におけるICT活用」「校務の情報化」の三つに分類し、これらを通して教育の質的向上をめざすべきとしている。

本研究は、教育の情報化が円滑かつ確実に実施するために、次世代の情報共有基盤システムであるNetCommonsの機能を活用することで教員のICT活用を推進し、教育の質的向上を図ることを目的とする。

そこで、以下のような仮説を設定し、本主題に迫った。

教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるためにグループウェアを導入し、以下のような場を設け、教員によるICT活用を推進する。

- ・ Webサイトを活用した教科指導に関する情報の共有が行える場
- ・ 指導案や教材の共有が行える場
- ・ 学習の効果を高めるためにグループウェアの機能を選択し、活用できる場

これにより学力向上等に向けた効果的な授業や児童生徒が効果的に学習できる環境を実現することができ、教員のICT活用指導力の向上が図られるであろう。

### 2 研究の概要

教員が職員室内で利用する職員室系LANと教員及び生徒が各教室で利用する教室系LANにグループウェアを導入して教員のICT活用を推進するとともに、各グループウェアの活用方法とその効果について研究を行う。

#### (1) 職員室系グループウェアの活用

- ① 校務における情報の共有
- ② 確実な情報伝達や双方向の意見交流
- ③ 教材作成の支援
- ④ データの共有による授業の質的向上

#### (2) 教室系グループウェアの活用

- ① 生徒のすばやい学習実態把握
- ② 生徒の実態に応じた授業の振り返り
- ③ 生徒一人一人の発表の場と共感しあう場の設定
- ④ 自己評価の蓄積及び分析による授業改善

### 3 成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- ① 校務の実態に応じてグループウェアを導入することができ、さらにグループウェア運用における支援や活用のための研修会実施により、グループウェア利用の活性化を図ることができた。
- ② グループウェアの導入及び活用により、「教育の情報化」に対する意識の向上が見られた。また「教員のICT活用指導力」の調査結果に向上が見られた。
- ③ 教科指導の効果を高めるグループウェアの活用方法について提案することができ、活用も図られた。
- ④ グループウェア導入のためのインストールパッケージβ版とマニュアルを作成することができた。

#### (2) 今後の課題

- ① 教員のICT活用を推進するために、研究で利用したグループウェアを県内に普及させていきたい。
- ② インストールパッケージβ版の課題を把握し、改善を加えて完成させる。

